# 第１回農林水産専門委員会での主な意見

（農業の振興）

●耕作放棄地や高齢化の解消が問題であると考えている。

●（現在の施策は）認定農業者など、先進的な農業者を育てようというところが強いが、そういった集団にも入れない小さな農家の人たちが一生懸命に頑張っているので、末端までスローガンが行き届いて、みんなで頑張ろうという気持ちにさせる取組みをしてほしい。

●大規模経営にしてコストを削減して利益を上げていくことをめざしていることと、地域コミュニティを維持するために農業従事者が必要であるにもかかわらず、駆逐するような政策というのは相反していると思う。

●兼業農家の方々が地域の環境保全に対して重要な役割を果たしている。大小にかかわらず農業の多面的機能を維持、果たしている農家に対しては補助制度を手厚くするのも一つの方策ではないか。

●施策全体が対処療法的なことが否めない。認識すべきは、これまでの施策の延長線上に現在があり、その現在が決してうまくいってはいないというのが現状である。同じように対処療法を続けても、延命策にしかならないのではないか。

●現在の施策は弱体経営を救済することに集中しているが、それだけでは次代を担う経営者は生まれてこないと思う。

●鶴岡市は「安全性」については認証という、使い方によっては大きな武器になるものを持っているが、これが地元自治体にあるという有利性は本来、他から見るとどこもうらやむような条件なので「情報」と合わせて有効利用されることを望む。

（森林活用）

●林業の場合、規模的に零細で生業としてやっていこうというようなことに到底届かないような方が多いが、ようやく近年エネルギー利用というものが大きく注目され、新たなチャンスが出てきているので、林業所得を高めていくかということに重きを置いてほしい。

●資源の循環利用という位置付けであれば、伐採したらなるべく造林をしていかないと森林の環境保全という面から考えてもバランスのいい状態ではないので、ここに「更新」という言葉を入れていくべきだ。

（水産業）

●農業、林業のことはよくわからないが、鶴岡市は水産業に関してはとてもよく面倒を見ていると思う。今のところ基本計画に書いてあることにはとても感謝している。

（地域資源の活用）

●国の政策のとおり色々なことを実施して成功した事例は少ない。地域の中で資源をどう生かし、そこから生まれた富を地域の中でどのように再分配していくかというような方策を、一つ前段で考えるべきではないかと思う。

●自然エネルギーを全部やり、共通の経済圏を構築して有機的にネットワークでつなげていくと次の時代の日本を描ける可能性がある。

（農・林・水産業の連携）

●柿栽培にかき殻石灰が使われているように、林業からでる不要物から堆肥や土壌改良剤をつくり、農・林・水を循環させるということができるのではないか。

●せっかく農林水産業が一緒になっている地域なので、お互い相互連携できるものを計画の中に組み込んでいけないか。そういった叩き台が出てくると、今いるそれぞれの人の意見から何か組み立てられるのではないかと思う。

（地域経済）

●今は競争にさらされていて地域が疲弊しているという実態もあるので、できれば藩政時代の地域経済のまわり方に戻るくらい、地域の住民がうまく経済を循環させるような方策を担うべきではないか。

（食）

●今生活費調査などをすると、家計費の中でパンが米を追い越している。食育の項目を１つ足していただければと思う。

●広い鶴岡なのでメリハリは出しにくいと思うが、今、食が注目されている鶴岡なので、食という事を据えていろいろなことを考えていけるようなら鶴岡らしいのではないかと思う。このままだとどこも一緒なのでもう少し鶴岡らしさを突き詰めていく必要があると思う。

（計画策定）

●この計画は模範的な行政の施策だと思うが、日本全体で同じようなことをやっていては地盤沈下していくだけだ。

●鶴岡は資源という意味でとても恵まれていると思うので、日本という中の鶴岡という地域からどういうものが発信できるかというぐらいのプランをつくってやっていけは日本のトップリーダーになれるし、地盤の隆起につながる。